

緑のセンターだより



No.156

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 27 年 10 月 1 日

講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「庭木の冬囲い」（実習）

とき 平成 27 年 10 月 18 日（日）
午後 1:30～3:30 定員 20 名
講師 公園緑地協会職員



「雪吊りの基礎」-基礎-（実習）

とき 平成 27 年 10 月 25 日（日）
午後 1:30～3:30 定員 20 名
講師 公園緑地協会職員



「庭木の冬囲い」-常磐公園管理棟（実習）

とき 平成 27 年 10 月 25 日（日）
午後 1:30～3:30 定員 20 名
講師 公園緑地協会職員



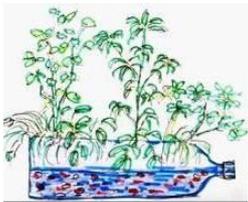
「ブドウと小果樹のせん定と栽培管理」

とき 平成 27 年 11 月 6 日（金）
午後 1:30～3:30 定員 50 名
講師 上川農業改良普及センター
専門普及指導員 松谷智美さん



「押し花カレンダーを作ろう」教材費 ¥700

とき 平成 27 年 11 月 15 日（日）（実習）
午後 1:30～3:30 定員 20 名
講師 押花サークルつくしんぼ代表 加藤迪子さん



「X'mas からお正月の寄せ植え」
12月6日 13:30～15:30
フラワーマスター 山本 裕美さん
定員 20 名 教材費 ¥2500

第 31 回「旭川市の公園絵画展」10月 10 日（土）～12 日（祝月）イオンモール旭川西

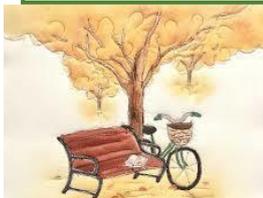


※「ペットボトルの寄せ植え」無料体験講習会を開催します！

日時：10月 10 日（土） ①9 時～ ②13 時～ 各先着 25 名様

展示会のご案内

（申込み・受付は前月の 20 日から）



「木の実・草の実写真展」10月 3 日～25 日
「旭川市公園絵画展」11月 3 日～ 8 日
「秋の神楽岡公園写真展」11月 14 日～29 日



【休館日のご案内】

4 月～10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。（祝日の場合は翌日）
11 月～ 3 月は毎週月曜日が休館日です。（ " " ）

～桜のトンネルプロジェクト～

桜の植樹会

10月 24 日（土）10 時～12 時
募集数：団体 3 組、個人 20 名
参加料：無料（作業できる服装）
募集期間：10 月 1～10 月 23 日
集合場所：公園河川敷沿い駐車場

〈園芸の基礎知識〉 花のしくみと役割

～ 花冠と花被 ～

園芸では花の「花びら」1枚1枚を「花弁(かべん)」と呼び、「花弁」の全体を「花冠(かかん)」と呼びます。花冠の分類には二つの分け方があり、一つ目の区分は、花弁同士が合着しているか離れているかの「花冠の形態」による区分です。もう一つの区分としては、花の一つの面又は直線(対称軸)を中心に対称(=シンメトリー)であるか否かで区分することを「相称性(そうしょうせい)」と呼び区分します。

□合弁花冠(ごうべんかかん):花弁と花弁がつながった(合着)状態の花を呼びます。

□離弁花冠(りべんかかん):花弁と花弁がそれぞれ離れている状態の花を呼びます。

■放射相称花冠(ほうしゃそうしょうかかん):区分できる対称軸が複数ある花を呼びます。

〈例:アサガオ、アブラナ、キキョウ、サクラソウ、ナス、ナデシコ、バラ、ヤマユリなど〉

■左右相称花冠(さゆうそうしょうかかん):区分できる対称軸が1つしかない花を呼びます。

〈例:エゾトリカブト、キンギョソウ、コチョウラン、サルビア、スイートピー、パンジーなど〉

■非相称花冠(ひそうしょうかかん):区分できる対称軸が無い花を呼びます。〈例:カンナ他〉



次に、「花冠(かかん)」と「萼(がく)」を合わせて「花被(かひ)」と呼びます。この花被の有無や種類によって次のように花を区分します。

■無花被花(むかひか):花被が無い花のことで、裸花とも呼びます。〈例:コショウ、センリョウ、**ドクダミ**、ヒトリシズカ、ポインセチア、ヤナギ類など〉



■有花被花(ゆうかひか):花弁か萼の一方でもある花をこう呼びます。これを細かく分類すると次のようになります。

●単花被花(たんかひか):花弁か萼の一方しかない花をこう呼びます。〈例:アケビ、カンアオイ、**クレマチス**、ニリンソウ、ミズヒキなど〉



●両花被花(りょうかひか):花弁と萼の両方がある花をこう呼びます。これをより細かく分類しますと次のとおりです。

・同花被花(どうかひか):花弁と萼が区別できない花をこう呼びます。この場合、花弁に相当するものを内花被、萼に相当するものを外花被と呼び区別する場合があります。

〈例:アヤメ、ヒガンバナ、モクレン、**ユリ**など〉



・異花被花:花弁と萼が区別できる花をこう呼びます。この種類が最も一般的です。〈例:キク、ケシ、ショウガ、スマレ、ツユクサ、ナデシコ、バラ、**ラン**など〉



(参考資料:誠文堂新光社「はなとやさいづくりの園芸用語事典」、八坂書房「図説 植物用語事典」ほか)

緑の相談 Q&A (30)

庭にムクゲを植えています。大きくなったのでせん定したいのですが、いつ頃、どのようにすればよいか教えてください。



ムクゲはアオイ科フヨウ属でハイビスカスと同じ仲間です。フヨウ属の中では珍しく、暑さ寒さに強く栽培が容易な庭木の一つです。樹高が2m程度の落葉低木で、中国が原産ですが韓国の国花として知られています。

ムクゲは、その年の春に伸びた枝の先端に花芽を作り、8～9月に花を咲かせますので、せん定時期は落葉する11月頃から翌春の3月頃までです。寒さの厳しい旭川では、枝枯れを起こす恐れがありますので、軽いせん定以外は寒さの緩んだ3月頃が適期と思います。風通しを考え多少強めのせん定でも花芽を形成して開花します。太い枝(1cm以上)を切った場合は切り口に「ゆ合剤」の塗布をお勧めします。

(参考資料:北海道新聞社「新版 北海道の庭づくり花づくり」、北海道新聞社「北海道の庭づくり」ほか)

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー(Q&A)」を掲載しています。こちらもご利用ください。

植物の病害虫

その27 「コナガ」

1 加害される植物

ストック、キャベツ、ハクサイ、ダイコンなどアブラナ科植物、ブロッコリー、カリフラワー、カラシ、カブカンランなどの葉を食べ、成長します。



コナガの幼虫と成虫



大根の食害

2 被害状況

幼虫は生長点付近の若い葉に寄生し、葉裏から葉肉を食害するので、表からは表皮が残り不規則な白い斑点が見えます。日がたつと表皮が破れて、葉に穴があくようになり品質の低下を招きます。また、被害の激しい場合には、生長点付近の葉をことごとく食害し心止まりの状態となり小さな苗では葉全体が食害されて枯死する事もあります。

3 生態

北海道における越冬については明らかではないが、発生源は成虫の移動飛来(1日に1,000キロもの距離を飛び続けることができます)による可能性が高いとされています。露地では年4~5回の発生、無加温ハウスでは6回程度世代を繰り返しているものと思われます。成虫は野外では4月中旬頃から降雪のみられる11月下旬まで継続的に発生し、その盛期は7月~8月です。ハウス栽培のストックでは早春から秋遅くまで各発育態が混在して発生しています。卵は葉裏に点々と産み付けられます。ふ化幼虫は、最初葉肉内に潜入して1齢期間を過ごし、2齢以降は葉肉内より出て葉裏に寄生するように、表皮を残して食害します。4齢を経て葉裏に粗い網目状の繭を作り蛹化します。

4 防除方法

- ・フェロモントラップを利用して成虫の発生動向を把握します。
- ・ハウスの周辺にアブラナ科野菜を栽培すると、成虫の侵入が多くなるので注意します。
- ・ふか幼虫は葉肉内に潜入し、2齢期以降になると葉裏に生息するので、薬剤散布は丁寧に行います。また発育が早く、繁殖力が旺盛なので、多発時には定期的な薬剤散布が必要です。
- ・薬剤抵抗性を回避のため、同一系薬剤の連用は避け、ローテーション防除を行います。
- ・薬剤:ガゼット粒剤(定植時)、プレオフロアブル、モスピラン顆粒水和剤、フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5、ゼンタリー顆粒水和剤などです。

サギソウを来年も楽しむために

ラン科 サギソウ属 日本原産 野草

サギソウは、夏から秋にかけて鷺が羽ばたいた姿のような白く清純な花を咲かせます。「戦国時代に、助けを求める姫君が手紙をサギに託すが、途中で射落とされサギが落ちた跡に、この花が咲いた。」という逸話があるように、昔から平地や山麓の湿地に自生する日本を代表する野生ランの一つです。しかし現在では、乱獲や生育環境の破壊によって生息数が激減して準絶滅危惧種に指定されてしまいました。



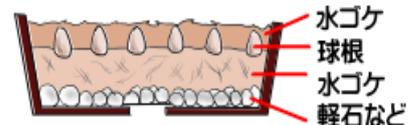
一般にサギソウは日当たりと風通しのよい場所を好みます。しかし、基本的には湿地で育つ植物ですから、乾燥状態では枯れてしまいます。

また、冬には地上部が枯れますが地下部の球根で越冬しますので、以下の点に注意して球根を乾燥させない・凍らせないで、次年度にまた、白く可憐なサギを飛ばせてください。

《来年もサギを飛ばすための栽培のポイント》

- ・開花後の花からはこまめに摘み取るが、茎葉は残して給水を続け、鉢内に新しい球根を養成する。
- ・肥料は、茎葉が枯れ始めるまでの生育期間に、半月に1回 2,000~3,000 倍程度の液肥を施肥する。
- ・晩秋に茎葉がすべて枯れた後も一年中、地下の球根が乾かないように必要に応じて給水する。
- ・茎葉が完全に枯れ、次年度の植え替えまでの間、0℃以下にならない低温・湿潤の状態 で保管する。
(冬は雪害よりも凍害やムレ対策を考えて戸外で管理し、暖房のある室内には持ち込まない。)

- ・植え替えは、少なくとも2年に1回、芽が動き出す4月中旬までに
行う。(雪解け後の休眠中に行います。水ゴケ単用が扱いやすい。)



展示室の植物 (63)

メディニラ・マグニフィカ (別名:オオバノヤドリノボタン 学名: *Medinilla magnifica*)

ノボタン科 メディニラ属

ピンクのシャンデリア「メディニラ・マグニフィカ」が、緑のセンターで今年2度目の花を咲かせました。

パラシュートのように広がるピンクの苞葉をもつメディニラ・マグニフィカは、昭和38年頃に日本に渡来したと云われています。この仲間は熱帯アフリカやアジアに150種~400種ほどが分布すると云われますが、マグニフィカはこの属の中では最も美しいとされる花木です。また、花だけではなく、葉も美しく観賞価値が高く、長さ20~30cm、幅15cm程の大きな卵状楕円形の葉が対生します。表面は濃緑色で、葉脈は鮮やかな淡緑色をしています。

属名のメディニラは、19世紀初頭、マリアナ諸島の知事メディニーリヤ(J. de Medinilla)の名にちなんで付けられました。また、種小名のマグニフィカは「規模が大きい」と言うのが由来です。

栽培は高温多湿を好み、寒さには弱いので15℃以上が必要で、日当たりのよい場所で栽培すると花付きがよくなります。培養土は腐葉土等の有機質を多く含んだ排水良好な用土を用います。草丈は1m以上と比較的大きくなり、冬期間は室内に取り込む必要がありますので、一般家庭で栽培することは、ちょっと検討が必要です。

